

# 経営のヒント

## 快答乱麻

財務・販促・労務・情報化など  
覚えておきたい経営のヒントをお届けします。

お答えいただいたのは



北九州商工会議所アドバイザー  
株式会社インターコンサル  
代表取締役  
古庄弘一さん

### 5S活動マンネリ化打破のポイント

**Q** 当社では、商工会議所の支援により5年前から5Sに取り組んでいます。職場での改善提案もほとんど無く現状維持にとどまっており、マンネリ化症候群に陥っています。マンネリ化打破の方法は無いでしょうか？

**A** 内容から察しますと、社内の5S委員会などによる運用や職場でのルール作りがかなり進んで、従業員の意識も良好な状況がうかがえます。マンネリ化の要因のひとつに、一度策定したルールの定期的な見直しが出来ていない事が想定されます。

①まずは策定したルールの運用状況に対する状況と問題点(良い点/不具合点)の定期的な評価を実施してはいかがでしょうか？

②見直しに当たっては、今までの5S範囲を部門、業務、製造プロセス、エリアなどの別により細かく設定し、それぞれの作業内容に適した改善(安全性、作業性、快適性、経済性など)をテーマにもう一度絞り

職場改善やISO認証取得支援、教育訓練などの指導が専門

込み、現状把握と問題点の抽出をします。その後、具体的改善策、日程、責任者などを決め進捗状況及び達成度の評価をします。これらの内容を一覧表などにまとめ「見える化」をします。

③5Sルール策定においては、既に作業手順や基準を作成し、5S啓発のポスターなどと共に職場への掲示をしているかと思いますが、現時点での最良の状態を写真撮影し、常にこの状態を維持しておく事を写真で「見える化」し、各部署での朝礼時などで定期的に確認することも一案かと思えます。

④可能であれば、同業他社の5S事例などの情報収集を行い、自社との差違(良い点、参考にすべき点など)について、従業員の「気づき」を喚起する仕組み作りが、マンネリ化を防止する一つと考えられます。

⑤定期的な評価制度の採用においては、経営層の関与とグループ表彰制度などの導入も効果的であると思われる。

# そのうた のかつた

## 健康



日々の体調管理はどうしていますか？  
本コーナーが今日からの健康管理の参考になれば幸いです。



大手町いまながクリニック  
院長  
今永知俊 先生

小倉北区大手町13の34  
ハローパーク大手町203  
TEL...562・2580

### 気管支喘息のコントロール

**Q** 気管支喘息と診断され、ステロイド吸入を行っています。最近では喘息発作が起きなくなりましただ。できればステロイド吸入をやめたいのですが……。

(小倉北区 女性 28歳)

**A** 気管支喘息の発作が起きなくなつたのは、長期管理薬によるコントロールができてきているということですが。しかし、発作が起これなくとも、気管支の炎症は続いていきますので、自己判断による薬剤の中止は絶対にやめ、必ず医師の指示を受けてください。気管支喘息の治療の基本的な考え方は「発作が起きたら治療するのではなく、発作を起こさないようにコントロールする」ということです。気管支喘息の治療は、重症度に応じた治療ステップより開始し、コントロールが得られたら、治

療をステップダウンしていきますが、症状が改善し、安定しても、少なくとも3カ月は経過観察する必要があります。医師は症状以外に検査などを参考に、気管支の炎症は落ち着いているかなどコントロール状況を把握した上で、薬剤の減量や中止の指示をします。なお、気管支喘息の症状をコントロールするには、薬物治療だけでなく、環境整備や運動習慣などの日常生活管理も必要不可欠です。コントロールが得られ、薬剤が減量や中止になったとしても、日常生活管理の徹底を心がけましょう。

